

シラバス (地理歴史) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	地理歴史科	科目	地理総合	学年	1年	類型	普通科
単位数	2	教科書	新地理総合 詳解現代地図最新版	出版社	帝国書院 二宮書店		
副教材	新地理総合ノート						

学習の到達目標

- (1) 地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けることができる。
- (2) 世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解している。
- (3) 我が国をはじめ世界でみられる自然災害や生徒の生活圏でみられる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。

授業の概要

- ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現できるように事例学習を工夫していく。
- ・世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に関連性を考察できる力を育成します。
- ・世界各地でみられる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の解決には持続可能な社会の実現を目指した各国の取り組みや国際協力が必要であることなどについて理解できるように視聴覚教材を有効に使う能力を身に付けます。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。	世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。生活圏の調査と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況 振り返りシート・ルーブリックなど
備考	<p>・観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地理情報システムについて、位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・地図や地理情報システムについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 	1 学期 中間考査
	第2章 結び付きを深める現代世界	<ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の地域構成を示したさまざまな地図の読図などを基に、方位や時差、日本の位置と領域、国内や国家間の結び付きなどについて理解する。 ・現代世界の地域構成について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 	
	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解する。 ・生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 	1 学期 期末考査
2 学期	4節 歴史的背景と人々の生活	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の多様な環境の下で育まれてきた生活文化は、さまざまな出来事を積み重ねることによって変化を遂げてきた。このような歴史的な背景は、人々の生活文化にどのような影響を与えてきたのか考察する。 ・さまざまな歴史的背景は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか考察する。 	2 学期 中間考査
	第2章 地球的課題と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などの地球的課題について、地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・地球的課題と国際協力について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付ける。 	
	3節 資源・エネルギー問題	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが日常生活を営むうえで、資源やエネルギーは欠かせない。世界の資源やエネルギーの利用にはどのような課題があるのだろうか。また、持続可能なエネルギーの利用方法とは、どのようなのか考察する。 ・エネルギーの利用にはどのような課題があり、どのように解決したらよいか考察する。 	
	4節 人口問題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口分布には偏りがあり、人口増加の傾向や人口構成も、国や地域によって異なっている。世界には、国や地域によってどのような人口問題があり、どのような対策が行われているのだろうか。 	2 学期 期末考査
3 学期	6節 都市・居住問題	<ul style="list-style-type: none"> ・世界にはさまざまな規模の都市があり、近年は、世界の各地域で都市人口が急増している。世界には、国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策が行われているのか考察する。 	
	第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 ・さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 	
	1節 生活圏の調査と地域の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの生活圏には、多岐にわたる地理的な課題がみられる。生活圏が抱える課題を探究するためには、どのような方法で地域の特徴をとらえ、どのように課題解決のための展望を見いだしていけばよいか考察する。 	学年末考査

シラバス (地理歴史) 科

愛媛県立大洲高等学校

教科	地理歴史科	科目	歴史総合	学年	1年	類型	普通科 商業科
単位数	2	教科書	高等学校 歴史総合	出版社	第一学習社		
副教材	歴史総合ノート、ダイアログ歴史総合						

学習の到達目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

授業の概要

- ・ 18世紀から現在までの近現代史を対象とし、300年にわたる「世界とそのなかの日本」について学ぶことで、世界と日本との深いつながりを学ぶ。
- ・ 近現代の歴史を学ぶことで、現在の世界がどのように成立したのかを理解し、様々な視点を持つことによって、現代の諸課題について考察する。

評価の観点・方法

次の3つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとめりごとに、下記の評価項目により観点ごと総括した評価結果を合計して、それを基に学期末・学年末に総括（評定）します。

	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③ 主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	・ 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ・ 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。
評価の対象	定期考査・課題確認テスト(小テスト)・授業時の観察	定期考査・単元テスト・課題レポート・授業時の観察など	学習への参加状況
備考	<p>・ 観点別学習状況は3段階で表し、3段階の表示は、A、B、Cとし、科目の目標に基づきその達成状況を「十分満足できる」：A、「おおむね満足できる」：B、「努力を要する」：Cとして評価します。</p> <p>・ 「評定」は、上記「観点別学習状況の評価」を総括し、その結果を5段階で表します。</p> <p>5 … 十分満足できると判断できるもののうち特に程度の高いもの 4 … 十分満足できると判断できるもの 3 … おおむね満足できると判断できるもの 2 … 努力を要すると判断されるもの 1 … 一層努力を要すると判断されるもの</p>		

年間学習計画

学期	単 元	学習内容とねらい（内容のまとめりごとの評価規準）	定期考査
1 学期	第1部 歴史の扉	・私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解する。	1 学期 中間考査
	第2部 近代化の世界と日本 第1章 近代化と私たち 第1節 18世紀のアジアの繁栄	・近代化に関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付ける。 ・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。 ・ヨーロッパ人の海外進出について理解し、その影響について考察する。	
	第2節 産業革命と市民革命	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。 ・18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	
	第3節 イギリスの繁栄と国民国家の拡大	・国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
	第4節 アジア諸国の変貌と日本の開国	・18世紀のアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	
1 学期	第5節 帝国主義の発展	・帝国主義政策の背景、帝国主義政策がアジア・アフリカに与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。 ・諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	1 学期 期末考査
	2 学期	第2章 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1節 第一次世界大戦と大衆社会	・国際関係の視点を軸に、第一次世界大戦勃発から終戦までの経緯と、参戦各国の社会の変化について理解している。 ・勢力均衡に基づく国際秩序と大衆の戦争参加が、現在の社会につながるどのような課題を生み出したのかについて考察し、解決策について追究しようとしている。
第2節 経済危機と第二次世界大戦		・世界恐慌から第二次世界大戦の終戦に至るまでの経緯について、大衆とマスメディアの関わりに着目しながら理解している。 ・大衆の戦争への加担という問題を現代社会における課題としてとらえ、その解決策を追究しようとしている。	
第3節 第二次世界大戦の戦後処理と国際秩序の形成		・冷戦および冷戦構造の形成と、国連を中心とする平和へ向けた新たな国際秩序について、日本と関連付けながら理解している。 ・国際連合を中心に、第二次世界大戦以前と以後の国際関係を比較することで、戦争の経験が人々に何をもたらしたのかを考察し、自分の言葉で表現している。	2 学期 期末考査
3 学期	第3章 グローバル化と私たち 第1節 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・55年体制の形成から高度経済成長に至る日本の動きを、冷戦下の国際情勢を踏まえながらその中に位置づけて理解している。 ・冷戦下の日本と世界の動向について、政治・経済の関連や諸地域間の比較を通して多面的に考察し、自分の言葉で表現している。	学年末 考査
	第2節 国際秩序の変容と21世紀の世界	・冷戦終結の過程とグローバル化の特質について理解している。 ・グローバル化の進展や地域統合、ナショナリズムの強化について各地域を比較して考察し、その特質や問題点を自分の言葉で表現している。 ・グローバル化のなかで福祉国家体制のなかから、新たに登場した新自由主義について理解している。	
	現代的な諸課題の形成と展望	・持続可能な社会の実現を視野に入れ、自ら主題を設定し、歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。	